



発行者長洲町中央公民館 副 藤末 藤人 編集者 広報長洲編集部 印刷所 玉名新聞社

交通安全町宣言

雨の航送船広場で式挙行

我が長洲町は有明海自動車航送船の就航以来、九州各地より大型バスを始め各種自動車の通行が急激に増加し、併せて最近交通機関の発達とスピード化により激化した諸種自動車交通の幅は誠に目につくものがある。更に今回新都市に指定されるその中心地となる長洲町の将来は交通地獄の状態に陥ることは必至と考えられる。

交通安全の原因を見るにその大半は人的によるもので交通法規の遵守と交通道徳の涵養、交通環境の整備、充実によつてそのほとんどは阻止し得るものである。この後町当局は道路を計画的に整備しその安全をはかり町民は交通安全をひとり取締り機関のみにゆだねることなく進んで協力し交通法規を守り、交通道徳の向上につとめ非難なる交通の絶滅を期すべく、ここに総力を結集して強力なる施策を全町の推進させるため長洲町を「交通安全町」とすることを宣言する。

昭和三十八年十月十四日
長洲町長 古閑二夫
長洲町民の誓い

あなたも... ねらわれている 交通事故をなくしよう

臨工都市造成と自動車航送船により、最近非常に車の交通量が多くなった。それに伴ない交通事故の件数もふえ、その対策を真剣に考慮すべき段階にきたので、此度町議会では交通安全町宣言の決議をし、折からの雨をついで、十月十四日十二時から航送船事務所前の広場で宣言式を挙行了した。

なお、当日はオリンピック前年祭の行事である聖火コースの大行進もあり、多数の町民の歓迎を受け、下磯町の栗原朋子さん(四才)からパレードの代表者に花束贈呈があり、午後一時長洲小学校の鼓笛隊、長洲中学校のバンドの演奏裡に五色のテープに名残を惜しみながら出航していった。



雨の式場にオリンピック前年祭 聖火パレードを迎える

一年間に全国で約五十万人の人が、交通事故で亡くなつたり怪我をしています。交通事故は人ごとではなく、いつ身近かになるかわかりません。交通安全町を宣言した長洲町民は、つぎのきまりを守り絶対に交通事故を起さないように致しましょう。

- 1、人は右、車は左のきまりを守りましょう。
- 2、道路はみんなのもので、店の前に車や品物を置かないように致しましょう。
- 3、道路への飛び出し、道路での遊びは危険です。お互い

去る八月三十日開催の公明選挙推進大会は各地区の推進員約一〇〇名が集つて次の申し合せを行つた。

一、公明選挙で次期選挙にのぞみましょう。

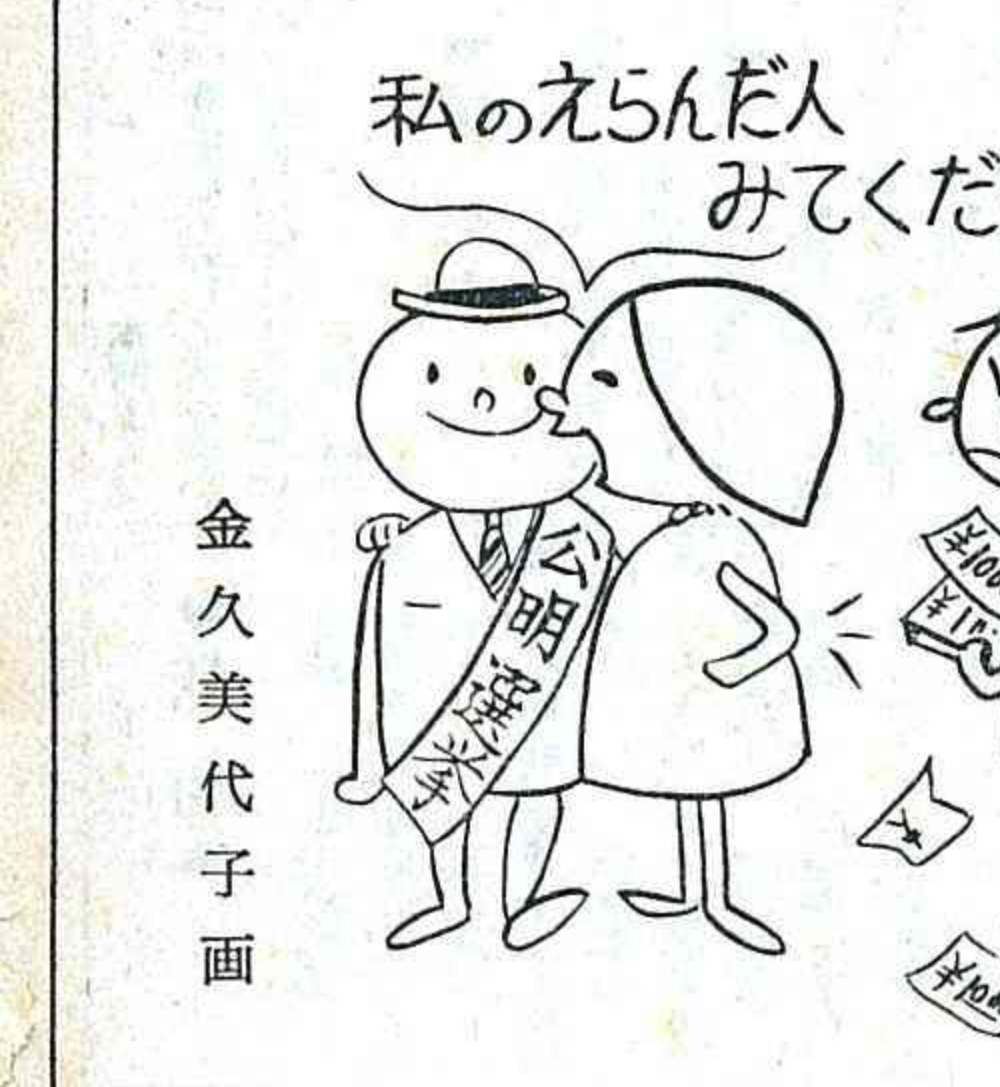
二、政治教育の徹底をはかる。

三、選挙の際個別訪問禁止のヒラを各戸に配付、戸に張りつ

正しい選挙で明るい国づくり

入選 長小六年 石原 誠二
" " " " 山本 千恵子
" " " " 中西 和美
" " " " 牛崎由紀子
" " " " 片田 啓子
" " " " 吉村千恵子
" " " " 吉田 悦子
" " " " 落合 澄子
" " " " 金久美代子
" " " " 一般

落選 長小六年 腹小四年 腹小三年 腹小二年 腹小一年 腹小半年 腹小四半 腹小四 腹小三 腹小二 腹小一 腹小半 腹小四分 腹小五分 腹小六分 腹小七分 腹小八分 腹小九分 腹小十分 腹小十一分 腹小十二分 腹小十三分 腹小十四分 腹小十五分 腹小十六分 腹小十七分 腹小十八分 腹小十九分 腹小二十分



金久美代子画

梅田みかん東京出荷

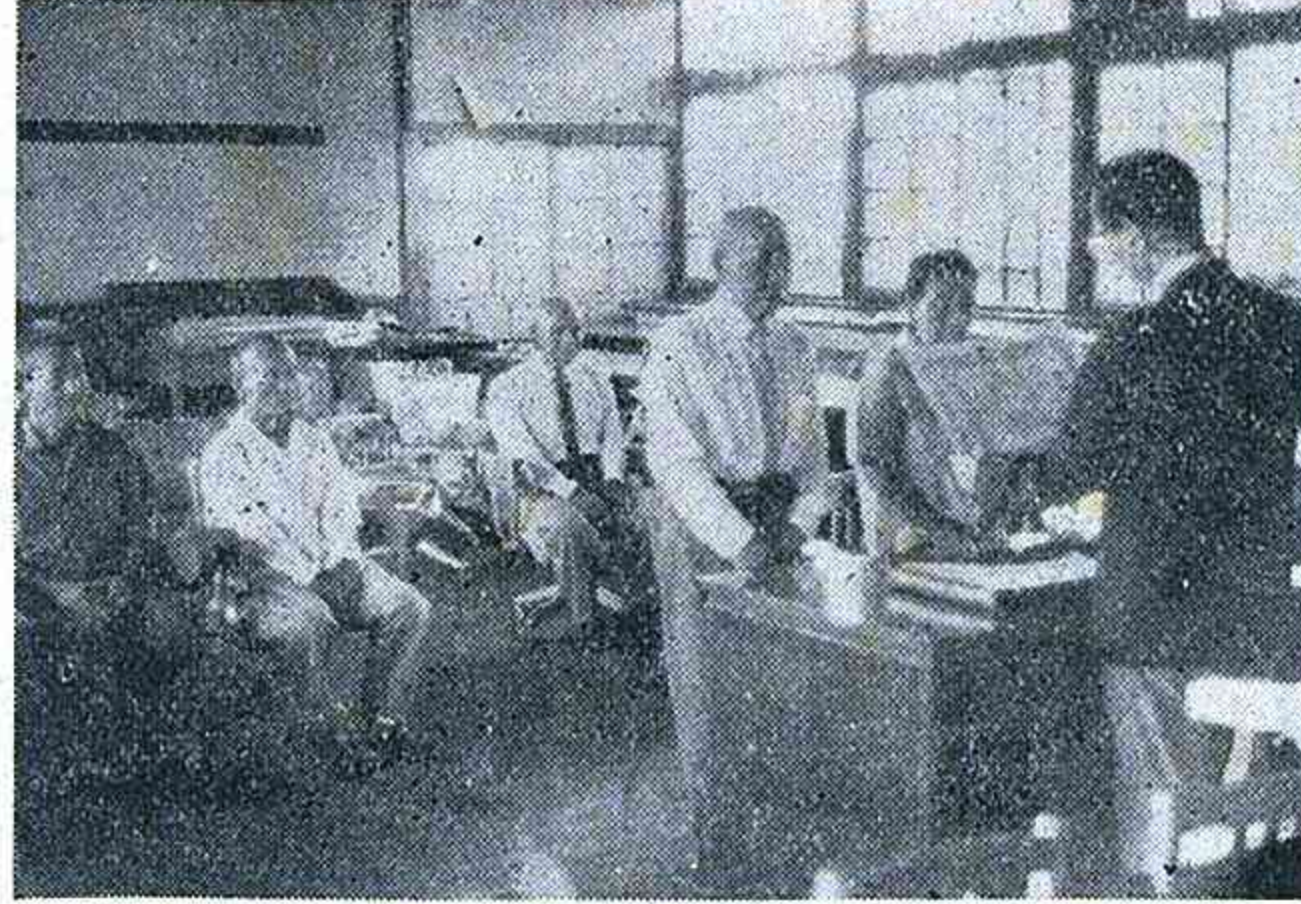
超えると言ふ見事な出来栄でありまして、旧清里小学校周辺一帯に枝もたわんに黄色く色すいたみかんが実つています。販売も将来を期して全量共同販売体制を確立しこれのあつせんを長洲町地区農協でやつており文字通り全く一貫したやり方をやっています。生産者の庭先で仮に運果したもの、大運果機にて運果をやり直し、ワックス処理を行い、ダンボール箱に箱詰を行い最後の化粧をほどこしてしかる後に、特選のみかん列車の女王となつて、故郷を遠く東京の新宿市場にて熊本みかんの声価をあげます。この長洲みかんが年々ますます多量に出荷されて農家の所得を富ます事は確約的なものであります。このみかんの前途を考へます時、有明臨海工業地帯の背後地として全く洋々たるものがあると思つて、(長洲町地区農協)

おめでとらう、みなさん

金婚夫婦の表彰

本年目出たく金婚の年を迎えられた方々の表彰を受け祝福された方々は次のとおり、

大字長洲 長田末徳
" " ウメ
" " 坂口勝衛
" " アイ
" " 本山十蔵
" " チャ
" " 浜村隊壯
" " モカ
" " 楠田卯一
" " タ、
" " 築地宜雄
" " 秋富政雄
" " 秋富政雄



これからもお幸福に 金婚夫婦表彰式

農業委員新陣容決まる

公選十二名、選任六名

長洲町農業委員の任期満了による改選が去る十月十日行なわれ、十二人の新委員が当選した。投票率は八三・三七%の好成績であった。

なお、学識経験者二名が議選から選任され、農協から三名、共済組合から一名の新委員がそれぞれ選任された。これで十八名の新委員が決定し発足した。

委員 吉村 浩 永 壺
" " 石本 智明 上 沖洲
" " 中山 正賢 西 新町
" " 福本 舜一 清 源寺
" " 松尾 燭 折 崎
" " 松本 逸 下 松原
" " 内野 与一 宮 野に
" " 福永 一実 上 本町
" " 福浦 保 下 松原
" " 浦田 正行 清 源寺
" " 文政厚生委員会
" " 委員 長 満田 正武 梅 田
" " 委員 長 濱田 隆志 清 源寺
" " 委員 長 宮島 政平 永 壺
" " 委員 長 船津 春野 永 壺
" " 委員 長 荒木 勝 上 今町

町議会常任委員改選

任期二年

昭和三十六年十月二十八日第七回定例会において選出された委員は、今度の任期満了となり、昭和三十八年十月二十六日第七回定例会で次のように常任委員を改選した。

総務委員会

委員長 馬場弥次郎
" " 宮路 利行
" " 大石 正行
" " 長尾 優
" " 野畑 日吉
" " 上田 一男

経済委員会

委員長 清源寺
" " 西新町
" " 東荒神
" " 下磯町
" " 高 濱
" " 永 壺

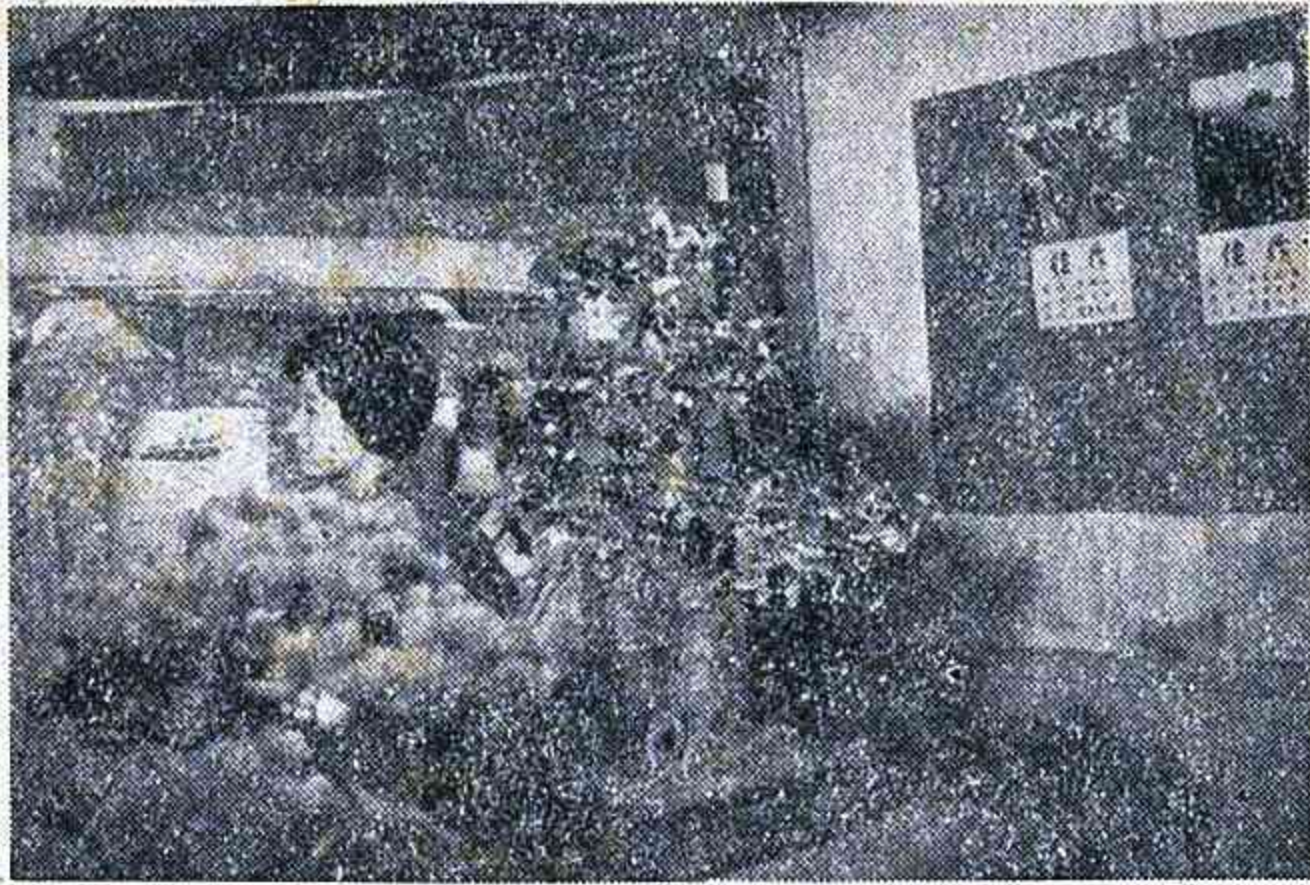
委員 長 松本 逸 下 松原
" " 内野 与一 宮 野に
" " 福永 一実 上 本町
" " 福浦 保 下 松原
" " 浦田 正行 清 源寺
" " 文政厚生委員会
" " 委員 長 満田 正武 梅 田
" " 委員 長 濱田 隆志 清 源寺
" " 委員 長 宮島 政平 永 壺
" " 委員 長 船津 春野 永 壺
" " 委員 長 荒木 勝 上 今町

七月から九月にかけて二ヶ月間九州大学に社会教育専攻講習を受講した。そして、激変する社会に即応しようとする人づくりが、現時点においていかに大切であるかを再確認した。▼困つくりも町づくりも、(長洲町地区農協)

秋風とともに芸術の秋が訪れた。私たちの長洲町では十五日、十六日、中央公民館で文化祭を開催しました。

盛大な作品展や 数々の行事開催 38年度文化祭

- 清里婦人会 六点
六栄婦人会 五点
美峰会 十五点
書道 二点
魚拓 十六点
掛軸 二点
手芸 二八点
写真 五七点
十月十八日 短歌会
十月二十日 囲碁会
イ組、一位 松竜 二位 山本
ロ組 三位 米村
一位 水野 二位 陶倉
ハ組 一位 島崎 二位 田中正
ニ組 一位 上田 二位 島村
三位 前田
十月二十七日 狂句大会



芸術の秋 写真展、盆栽展会場

文化祭 文芸

短歌

けづられし緒土の肌端々と新し
く道野を貫けり 吉川ふじえ
天草より不意に吾子帰きぬま
つ白き包帯の手をかゝえており
ぬ 今口 歌子
母の座の忙しき一日ようやくに
終えてやすらぐ妻の寝顔よ
水本 泰平
雲仙の嶺に茜の雲たちて今日の
一日の終り近つき 徳永 しき
職制の視線背中に感じつゝ支柱
たづくゆきさみさみ

俳句

兼題 冬仕度 石榴 秋の蜂
駒通り 長尾 邦子
冬仕度子供の伸びを今さうに
下東町 長谷川 貫
愚痴もなく貧苦の妻や冬仕度
中宝町 菅尾 健一
岩風呂の石道い登る秋の蜂
下宝町 山本 照夫
生花の石榴不馴れの水に生き
出町 羽田野富治
めて破ればこぼる石榴の実
出町 福田 紅泉
山狭の朝霧囁む熱れ石榴
上今町 小川 開眼
実石榴の皮を剥きて腸を返えし
清源寺 竹本 六空
冬仕度蘇鉄の幹に葉を巻く
牛 水 本田 秀子
洗濯もかわきし庭に秋の蜂
下東町 林田 幸昌
住む人もなき炭屋や秋の蜂
下今町 福村 重敏
秋の蜂巣溜り残し屋根を背く
用木 俊子

狂句

人横から見てもミス本は図
抜けとる 田上涼風
中央公民館長選
天まとまつてそから息子早
よ起きる 坂本迷入
地まとまつて 満屋に出たホ
ムラン 寺田里城
人生返事 ほかにもある
こたる 入江滿歩
寺田里城選
天 美容院カツラの足らん菊日
和 叫 仙岳
地 よかつたなア 親は学歴持
たんでも 田上涼風
人 乾釜して さてそれからが

心の窓

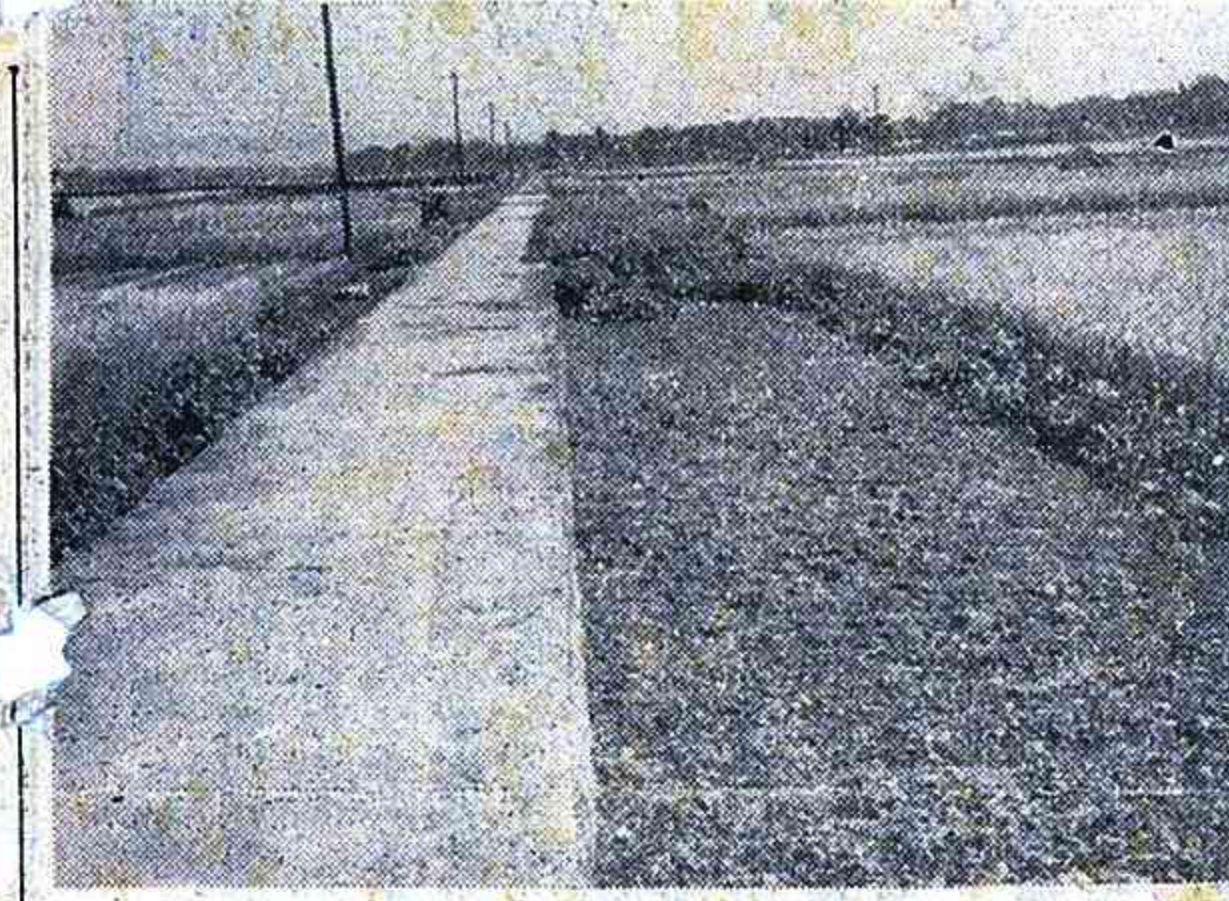
赤崎の城戸清剛さん
九月上旬のある日、長洲町警署に訪れた。係一同は大変感服された。係一同は、赤崎の城戸清剛さんのお母さんたち四人と、部派出所に一人の学生が訪れ、謝し、寄贈の図書とたつた一人の男子の子である清剛の警官に図書三冊と夏休み中にして公民館に受入れ、寄付金さんの五人の子供を母の手一つにアルバイトとして大卒の運でも図書を購入し、一般市民の育てて来たのである。



郷土の遺蹟を訪ねて 長洲町の縄文文化

歴史の歩みを知ろうとすれば時代の遺蹟が一つもない、とい文化のあけぼのといわれる右うのは、いかにもおかしいこと器時代、即ち縄文時代から手を、考古学者の間で、熊本県のつけなければならぬ。

先づ蒐集の土器片(會州式六「長洲町最初の縄文時代の出土七千年前)、黒耀石矢矟、石品だ。」と称讃を受け、これを、海獣骨等を見られるや、一出した場所案内したところ、



眠っている先住民の遺蹟 腹赤新町貝塚

調査は更に古閑町長所有の鹿角柄石片の調査をした。これは牛水の貝塚より出土の縄文中期の物で、破損されず完全な型でも保存されているのは全国的にも珍らしいと言われた。そして今年度の調査の結果次第では、文化財の指定も可能性があるとのことである。長洲町中磯町の林力氏は考古学に興味を持ち、数年来土器や石器の蒐集を続けてこられた。



ハジコたい 村上二条
胸算用 日の丸くつ上つ
どか 城戸無名
長さア 電話ボックスア、
かる、菅尾健坊
腹算用 質屋は思つて貸
さん 浜田すみれ
長さア 便所てねむりやし
とらんか 宮原蝶花

長洲町社協に寄附
左記の方々には香典返しとして長父寺田長吉 寺田豊次 上松洲町社会福祉協議会の事業資金に上田鶴子 上田 眞輪に充てるよう多額の御寄附を亡父中島熊五郎中島秀雄 上松れました町社協は御芳志に副うよう努力いたします
記
死亡者及び寄附者御芳名
亡父小宮手次 小宮 博 下磯
(長洲町社協)

文化祭出品を感謝します

- 文化祭(展示会)
出品者 翠好会 黒崎浩、浦島敬、山己代子、徳永せん、島津好子、田中伍市、作 森厚子、浜田泰子、金森節子、本好司、林田茂、岡倉良子、村本富美子、中西ヨ田尻万春、福田三九、大辻豊子、馬場重子、内浜代清、村上保、森 誠子、村田恵美子、浜田泰子、江豊次、渡辺義弘、福田千穂美、築地くに子、中島上土井栄太、高野 幸子、藤末仰、荒南キツ、馬場八百十、秋富藤蔵、美津香、魚拓十六点、書道二、空閑啓太、渡辺 十一、書道四画、長小十九まつえ、桑本勲勢、林田賢、水木泰平、藤山八朗、生花 中島幸子、



おわび

社明運動作文「明るい長洲町をつくるには」小、中学生の入選作品六編は、紙面の都合により次号に掲載します。(保より)